

若者とボランティア

論説委員長 勝沼直子

日々小論

NIEワークシート中～高校



左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①「意識高い系」の言葉の意味を、次の中から選び、記号で書きましょう。

- ㉠ 勉強や仕事に熱心な人
- ㉡ 社会的に高い地位を手に入れようとしている人
- ㉢ 言っていることや行動は素晴らしいが、中身がともなっていない人
- ㉣ 自分を善人に見せようとしている人

2 傍線部②「NGO」とはどんな団体ですか。次の中から選び、記号で書きましょう。

- ㉠ 政府から独立した民間団体で営利を目的とせず、国際的に活動している組織
- ㉡ 政府から独立した民間団体で営利を目的とせず、国内で活動している組織
- ㉢ 経済や福祉の向上を目指す国際機関
- ㉣ 平和と人類の福祉の向上を目的とした国連機関

3 傍線部③の場所とはどこですか。本文中から抜き出しましょう。

4 傍線部④について、三宅奈央さんの心に刻まれた言葉を本文中から抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

--	--	--

ボランティアに参加する若者たちから「特別だと思われたくない」という声をよく聞く。周りに「意識高い系」「偽善的」

などと思われぬか、と考えるのが軽に話せないというのだ。

私は若者が語るボランティアの体験談が好きだ。昨年話を聞いた大阪大人間科学部4年の三宅奈央さん(23)は神戸市もその一人。研究室のフィールドワークで訪れた佐賀県の一般社団法人「おもやい」で災害ボラン

ティアを初めて経験し、「年齢も境遇もばらばらな人との出会いが新鮮で、はまった」。

1年休学し、全国の農村や温泉地などでアルバイト生活をしてきた時に能登半島地震が起きた。被災地NGO協働センター

(神戸市)が呼びかけた「足湯ボランティア」に参加したのが縁で、「いつの間にか」同センターの現地スタッフとして七尾市に住み込み、住民の困り事を

聞いたり、ボランティアの受け入れを手伝ったりするように。被災者から言われた「本当な

ら(地震など起きず)出会わな

い方がよかったのかもしれない。でも『なおちゃん』に会えてよかった」との言葉は宝物だ。春からは社会人。「ただの大学生を受け入れ、一緒に過ごすだけで喜んでくれた場所に、どうしたら関わり続けられるかを考えています」

神戸で生まれ育ったものの、生まれる前の阪神・淡路大震災は遠い出来事だったという。だが今年17日、初めて関連行事に参加し、能登で知り合ったボランティアとも再会して「それぞれの心の中に1・17はずっと刻まれていて、能登へとつながっているのを感じました」。

その言葉に力をもらおう。若者

たちのやわらかな心にはどんな言葉が刻まれたのか。それぞれの体験を聞かせてほしい。

NIEワークシートのこたえ（2025年1月30日公開）

◆ワークシート「若者とボランティア(国語・社会)」
2025.1.28 朝刊 5面 解答

1 ㉗

2 ㉞

3 七尾市

4 本当な